



春闘

国労結成80年。
今こそ国労運動に自信と確信を持ち、
力を合わせ前に進んでいこう！

執行委員長 小林靖浩

組合員ならびにご家族のみなさま、新年あけましておめでとうございます。みなさまにおかれましては健康やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

私たち国労に課せられた課題は山積していますが、なかでも地域の足であるローカル線をめぐる動きは、今まさに大きな節目を迎えて

います。JR西日本はコロナ禍の減収に乗じて、公共交通の役割を放棄するかのよう「存続困難」をアピールしてきました。

このような中、国主導で存廃を含めた公共交通の在り方を議論する「再構築協議会」制度に基づき、芸備線（備中神代～備後庄原）を対象に協議会が設置をされ、2024年3月に初会合が開催されて以降、間もなく2年が経過します。

この協議会は「3年を目途に存廃の結論を得る」としているように、残された期間はあと1年余となっており、より一層注視していかなければなりません。

国鉄の「分割・民営」化によって国民の財産であった鉄道を引き継いだJRには公共交通を守るという社会的責務があります。同時に、「分割・民営化してもローカル線はなくなるらない」

と当時の政府自民党は大々的に宣伝し、国策として分割・民営化を断行した国の責任は重大であり、行司的調整役などという傍観者のな姿勢ではなく、主体的に鉄道ネットワークの持つ社会的価値や役割を認識し、ローカル線の維持と利便性を図るために積極的役割を果たすことが求められています。

一度失われた鉄路は復活させることはほぼ不可能です。沿線自治体や利用者と連携した実践はもとより、分割・民営化を通して闘ってきた私たち国労として、全国単一組織としての優位性を発揮し、この闘いを全国統一闘争と明確に位置付けた具体的な闘いが強く求められているといえます。

地方本部としても、鉄路を守るため引き続いて現状の中で出来得ることをみなさんと一緒にとりくむと

もに、駅の無人化・窓口閉鎖、減便、ワンマン化など安全・サービス切り捨てに反対し、安全、安心して利用できる鉄道の確立に向けて奮闘していきたいと考えています。

さて今年は国労結成80年という節目の年であります。周知のように3月には岡山、米子、広島の各地方本部を統合し、新たに「中国地方本部」を結成することが決定しています。

私たちはこれを国労運動の継承と発展に向けた「新たなスタート」として位置付けていかなければならないと考えます。

次世代へとつなげていくために、粘り強く、そして繰り返し国労の存在をアピールしていきましょう。その積み重ねによって、お互いに喜び合える日を迎えたいと思います。

26春闘はすでに始動しています。この間の賃金抑制と相次ぐ物価上昇で働くものの生活は厳しい状況に追いやられています。

一方、業種や企業ごとの差はあるものの企業がもつ現預金は増え続け、内部留保は600兆円を超え13年連続で過去最高を更新し

ています。今こそ労働組合の存在意義が問われています。私たちを取り巻く状況は厳しい中にありますが、私たちが今まで歩んできた国労運動に自信と確信を持ち、地方本部運動を全組合員の力を合わせ前に進めていく、その決意をあらためて申しあげるとともに組合員・家族の健康とご多幸を祈念し、新年のご挨拶と致します。ともに頑張っていきましょう！

今年もよろしく
お願い致します

地本役職員

・執行委員長

小林 靖浩

・執行副委員長

勝田 哲也

・書記長

青山 准三

・執行委員

小林 裕二郎

・第一支部委員長

藤江 一成

・第三支部委員長

定広 文彦

・第三支部委員

仁科 達也

・会計監査

西原 浩

・書記

岡本 岩夫

古賀 由恵